

## 最初の日曜日

2019年3月3日(日) 天気は晴れ時々曇り。

この日も都心に出かけた。中山広場から南西に延びる玉光街、高層ビルの谷間に、戦前からのキリスト教会「玉光街礼拝堂」があった。熱心な信者が大勢つめかけて、最初は中に入ることはできなかった。礼拝堂の外にも人がベンチに座ったりしていた。黄色いジャンパーを着ている人はどうやら教会のスタッフらしい。屋外のガラスケースに収まったポスター等には、この教会の沿革などが書いてあった。確か初めてこの街を訪れた2004年夏、観光スポットとしてのこの建物に立ち寄ったことがあった。その時の会堂は、聖公会系のプロテスタント教会だった。今回、その点が違っていた。少なくともそうした宗派の明示が何も書かれていなかった。

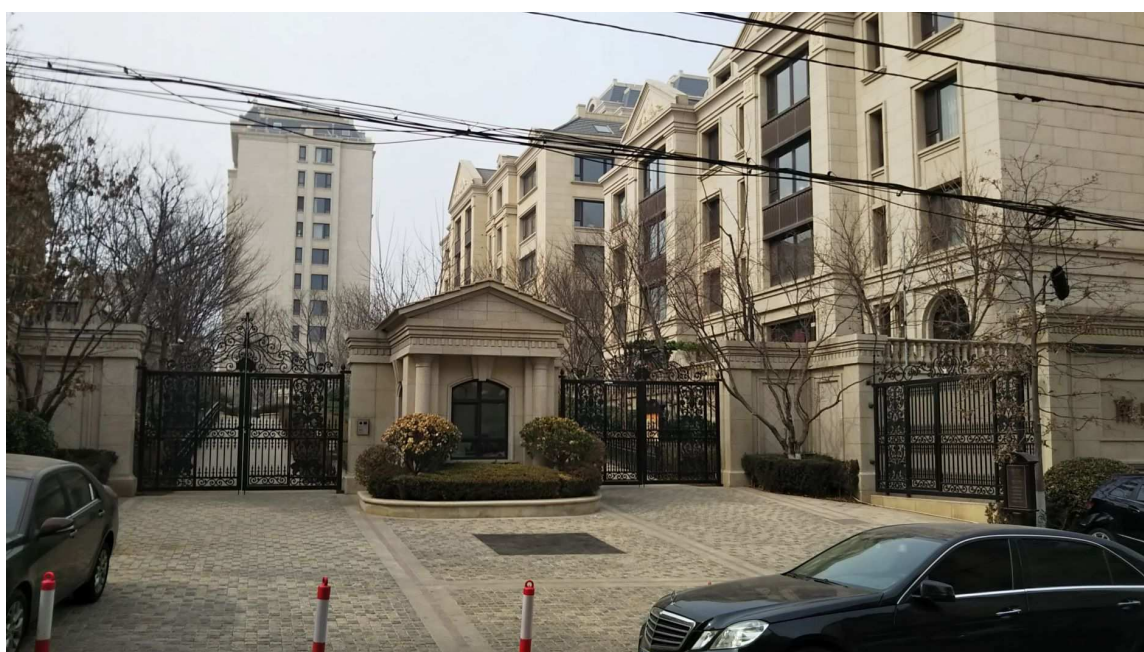
大学で渡された留学生用の手引きには、信仰の自由は保障されると書いてあり、この共産主義を建前とする中国でも宗教活動ができることは知っていた。しかし留學生活も後半に入って分かって来たことは、キリスト教に限らないと思うが、当局による国家管理が進んでいるのではということ。この玉光街の礼拝堂も、信教の自由を求める外国人の教宣活動が目立った昨年、その関係者が逮捕され、以来公安の監視も厳しくなったと聞いた。留學中、こうした施設に出入りし現地の知友をつくろうと期待していた私には残念なことだが、日曜の玉光街往きは三週目をもってやめ、遠ざかった。



玉光街礼拝堂 創建は戦前の1927年に遡ると言う

礼拝堂の次に向かったのは、7年前の夏、中国語研修で滞在した大連外国語大学の旧キャンパス。これも中山広場から延びる延安路の南端にあり、徒歩数分の所だ。驚くような変貌ぶりだった。6haほどの広い敷地には十棟近くの高層で高級なマンションが立ち並び、「南山首府」と名付けられていた。いかめしい

ゲートが立っていて、中に入るには門衛の許可を受けなければならない。遠目に様子をうかがうしかなかった。語学研修にいそしんだ 2012 年夏、担任の王燕女史の口から聞かされたのは、大学の郊外へのキャンパス移転の話だった。その後ここにあった施設は解体され、新キャンパスが南隣の旅順市の広大な敷地へと移転したと聞いていた。しかし、この地が高級マンション群に化けるとは驚きだった。キャンパスの東側には、その名も南山と呼ぶ高い丘へと登る坂道があり、当時、街に出る時はその道を下ったものだった。しかし今、道沿いには高級マンションとの境にコンクリートの城壁が続いている。道端で物売りが雑貨を広げ売っていたが、そのおばちゃんの姿もない。庶民の街の雰囲気があったが、今は富裕層の土地になってしまった。この間の中国の経済成長とその激変ぶりを、見せられたようだった。



**東側の道路から見た「南山首府」 この辺りで見かけるのはベンツなど高級車ばかり。**

帰りは、北側の大連駅まで道がゆっくり下りとなるので、そのまま散策。駅前の商店街では日本語を話す一団と行く方向が同じになった。話しかけると、この地の大連理工大学へ留学を始める日本人の学生達だった。今日は学期前の市内見学だとか。なるほど、どこもかしこも新学期を迎えているのだと理解した。駅前から出るバス路線 101 はそのまま、宿舍最寄りの蘭玉街まで直通だった。これがモダンなデザインのトロリーバス。最近の日本に普及する電気自動車とメカニズムは同じはず。バスはうるさい音も立てず、スマートに我々をキャンパス最寄りまで運んだ。何しろ駅が起点なので、使い勝手が良い路線だった。おかげで滞在中何度もお世話になった。